

第6章 学外との交流

本学では、「富山県の発展をめざした県民の大学」を建学の理念の一つとし、学外との交流を通じた教育・研究の深化に努めてきているところである。

また、大学の目的に「学術と産業との有機的連携を進めるとともに、富山県民の本学に対する地域振興の原動力としての期待や生涯学習に対する多様な要請に応え、科学技術の新たな拠点として、学術文化の向上と産業の振興発展に寄与」することを掲げているとおり、学外との交流は、学術・研究から生涯学習まで多様に実施され、その範囲も県内はもとより、特に研究活動などについては県外・国外にもおよんでいる。

ここでは学外との交流を、地域社会との交流、研究活動と国際交流に分けて述べる。

I 地域社会との交流

地域社会との交流は多方面にわたり、多様な形態と内容をもっている。ここでは、交流の形態をつぎの四つに大別する：大学全般の研究活動を基盤とする交流、教員個人の研究を基盤とする交流、施設の開放、地域社会への広報。

1. 大学全般の研究活動を基盤とする交流

大学が中心になって実施する研究を基盤とした地域社会との交流については、2003年度（平成15）まではそれぞれの活動を個別的行ってきたが、2004年度（平成16）に富山県立大学地域連携センターが設置されてからは同センターで一体的に行っている。

(1) 富山県立大学地域連携センターの設置

本学では、地域に開かれた大学として開学以来、有為な人材の育成や広範な学術研究を通じて地域経済の発展に寄与するとともに、共同研究などの産学連携事業や公開講座などの生涯学習・地域交流事業などを通して、本学教育研究成果の社会還元に積極的に取り組んできたところである。

こうした中、大学の競争と個性化の高まりや、県内産業界における課題の多様化に対応するため、2004年（平成16）4月に、地元産業界との産学連携事業や地域との生涯学習、地域交流事業を一体的に行い、産業界や地域社会を結ぶ総合窓口機関として「富山県立大学地域連携センター」を設置した。地域連携センターでは、開学当初からの交流事業を引き継ぐとともに、大学と県民・産業界の連携を図りつつ新たな事業にも取り組んでいるところである。

地域連携センターの運営方針は、所長を中心に各学科から選出された委員で構成される地域連携センター運営委員会によって審議される。また、地域連携センターには、運営委員や事務局職員の他に、学内のシーズ発掘と産業界のニーズ把握を行い、これらのマッチングを行う専任の産学官連携コーディネーターが所属している。

地域連携センターの活動は大別すると、生涯学習に関するものと、産学連携に関するものの二つに分けられる。

(2) 生涯学習に関するもの

① 公開講座

公開講座は、本学が地域に密着した大学としてその教育研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の発展に資するとともに、生涯学習の一助とすることを目的とし、開学初年度から開催している。

公開講座は、毎年度2回春と秋に開催している。春季講座は6月から7月にかけて市町村教育委員会と連携して行うもので、開催決定した市町村の要望を聞いて主題を設定し、その市町村で実施している。また、秋季講座は主題を専門学科に関連するものから設定し、大学内を会場として実施している。

また、公開講座は、富山県の生涯学習機関である「県民生涯学習カレッジ」との連携も図っている。

公開講座の実施内容を資料6.1に示す。

② 県民開放授業（オープンユニバーシティ）

県民開放授業（オープンユニバーシティ）は、本学で開講している授業を一般県民にも公開し、学生と一緒に授業を受けられる制度で2003年4月から実施している。前期、後期ともに100前後の授業を公開することにより、教育研究の成果を広く開放し、本学と地域社会との連携の深化を図っているところである。

③ ダ・ヴィンチ祭

小・中学校生や高校生に科学への興味や関心をよび起こす目的で、1996年から夏休みのはじめに行っているもので、県内諸団体・企業の協力を得て実施している。

大学のキャンパス内で、つぎのような内容の催しを行い、小学生やその保護者をはじめとし多くの参加者を集めている。：おもしろ科学縁日、大学探検隊、こども科学製作教室、クイズ大会など。

(3) 産学連携に関するもの

① 産学連携コーディネーター業務

地域連携センターでは、産学連携コーディネーターが中心となり、企業からの来所や企業への訪問を通じて、主につぎのような活動を行っている。

(i) 企業のニーズと大学のシーズとのコーディネート

(ii) 企業からの技術相談に応じて教員との打ち合わせを行い、地域企業の活動に対する支援を行う。

(iii) 企業の技術相談に応じて、アドバイス及びコンサルティングを行う。

(iv) 受託研究、共同研究、奨励寄附金研究などについて、教員と企業との調整を図る。

② リカレント講座

職業を持つ社会人の再教育ニーズの高まりに対応するため、本学では1992年からリカレント講座を開いている。1992年から1994年までの3年間は文部省のパイロット事業として、2000年から2007年まではイブニングセミナーを実施している。そして、2008年か

らはイブニングセミナーを再構築して、若手エンジニアの基礎的工学知識の習得を支援する「若手エンジニアステップアップセミナー」を開講している。「若手エンジニアステップアップセミナー」は、カリキュラム策定に県内企業の方にも参画していただいていることが大きな特徴である。また、県内企業の方の意見や、受講者からのアンケート結果などを踏まえ、毎年改善に努めている。

リカレント講座の実施内容を資料6. 2に示す。

③ 大学シーズの発信

地域連携センターでは、つぎのような形で本学教員の研究シーズの発信も行っている。

- (i) 企業等に対し、本学の研究シーズを発信する「地域連携公開セミナー」の開催
- (ii) 本学教員を企業等に派遣し、大学の研究シーズを積極的に開示するとともに企業ニーズとのマッチングを目指す「モバイルラボ（“お出かけ研究室”）」の実施
- (iii) 団体や企業等が実施する産学連携のためのシーズ発信イベントへの出展

④ その他

地域連携センターが設置された2004年（平成16）4月には、本学との産学連携を推進し地域経済の活性化に寄与することを目的に、本学を産業界がサポートする組織として「富山県立大学研究協会の」が設立され、産学連携コーディネート活動への支援をはじめ、優良研究テーマやテーマ別研究会活動への支援など様々な活動が行われている。

また、金融機関や経済団体等と連携協定を締結し、これらの機関との教育・研究、大学と企業とのマッチングなども行われている。

2. 教員個人の研究を基盤とする交流

教員個人の研究を基盤とする地域社会との交流は、県および県内の市町村の行政機関や各種団体からの招聘によるものが主なものであり、その内容は多様である。主な形態のものを列挙すればつぎのとおりである。①富山県および市町村が主催する各種の審議会・委員会に学識経験者として委員・専門委員に就任する。②富山県および市町村が主催する各種の生涯学習講座に講師として出講する。③県内業界団体および専門家集団の会合における学術上の講演に出講する。④大学敷地内に設置されている放送大学富山学習センターの相談講師などに就任する。

3. 施設の開放

地域社会への施設の開放は大別して2種類になる。その一つは大学の施設見学であり、他の一つは地域住民の施設利用である。大学の見学・説明会には、高校生、高校教諭、高校PTAなど、年間約800名の訪問がある。

地域住民の施設利用としては、体育関係施設と図書館の利用が挙げられる。体育関係施設については、地方自治体関係者のほか、地域住民の団体がスポーツ活動を行うために利用を希望される場合が多いが、利用にあたっては、本学の学生の教育・課外活動に支障ないことが条件であり、それらの活動のない時間（平日ならば夜間、全日ならば休日か夏季休暇期間等）に限られる。図書館開放については第4章のVで述べた。

4. 地域社会への広報

大学が学外に対して行う広報活動は大別して2種類になる。一つは入学者募集のために入学希望者および高校・予備校などの関係機関を対象に行うものであり、他の一つは学術交流や地域社会との交流のために国内外および地域社会の関係機関や個人を対象にして大学の教育・研究や施設の状況を紹介するものである。

この広報活動には、①パンフレット・ビデオ等による大学紹介、②新聞・受験雑誌などへの広告、③教職員が高校・研究機関・企業交流会などに参加して行う大学紹介、④高校生徒・研究者・企業や生涯学習グループの大学見学会の実施、などがある。このうち、入学受験者向けの小冊子を除いて、これまで本学が地域社会の各種行政機関および学校・民間団体・企業などに配布した大学紹介の小冊子類はつぎのとおりである。

また、大学ホームページを開設し、大学に関する様々な情報を発信している。

富山県立大学紀要	大学・県内行政機関・各種企業
大学案内「工学心」	高校・県民一般・県内行政機関
教員紹介パンフレット	高校・県民一般・県内行政機関
県立大学研究紹介	高校・県民一般・県内行政機関
研究者総覧	高校・県内行政機関・各種企業
研究室ガイドブック	高校・県内行政機関・各種企業
地域連携センターパンフレット	県民一般・県内行政機関・各種企業
地域連携センター年報	県民一般・県内行政機関・各種企業
英文大学案内	外国人一般・外国人研究者
大学案内（求人依頼）	県内行政機関・各種企業
県立大学ニュース	高校・県内行政機関・本学学生